The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	タリ節における「～てみる」をめぐって
Author(s)	高橋，美奈子
Citation	現代日本語研究. 2019, 11, p. 1-20
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/73337
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

タリ節における「～てみる」をめぐって

Temiru in *Tari*-clause

高橋　美奈子
TAKAHASHI Minako

キーワード：テミル，タリ節，「試行」，「試行」の典型からの逸脱

要　旨

補助動詞「みる」が動詞テ形に後接した表現「～てみる」は，主節では意志的な動作に付き「試行」を表すとされる。本稿では，従来ほとんど言及されていなかった，タリ節内では主節に比して「みる」に多様な事態が前接するという現象を取り上げ，それについて記述した。またこの現象を追究するにあたって「試行」について再検討し，主節とタリ節における共通点と相違点を示した。

１．補助動詞「みる」の意味用法

補助動詞としての「みる」が動詞テ形に後接した表現「～てみる」（以下，「テミル」とも表記する）の意味・用法については，次のことが知られている。テミルの現れる環境で大別し【Ⅰ】・【Ⅱ】とする。

【Ⅰ】主節[1)]において

テミルは，「試しに～する」という「試行」の意味を表す。

(1) 人々の意識を探るため，アンケート調査を行ってみた。

補助動詞「みる」に前接するのは，(1)のように，動詞は意志動詞，事態は意志的な動作であることがもっぱらである。無意志動詞とされ通常は意志的に統御できない動きを表す動詞であっても，動作の主体が意志的にその動作を行う場合すなわち意志的な動作を表していれば，前接が可能である。

(2) 同情を引こうと思って，彼の前で転んでみた。

しかし，主体が意志的に行う動作ではない事態は前接することができない。

(3) *夜が明けてみた。

【Ⅱ】条件節，テ形節，命令文（あるいは命令節）において

補助動詞「みる」に前接する事態は，主体の意志的な動作（例(4)）に限られない。出来事や非意志的な動作などが前接することもある（例(5)a～e)。

(4) アンケート調査を行ってみると，意外な結果が出た。

(5)a. 夜が明けてみると，暴風雨の被害が明らかになった。

b. コツがわかってみたら，大して難しい仕事ではなかった。

c. 今になってみれば，彼の予想が正しかったことがわかる。

d. 健康を失ってみて，“当たり前の生活”の有り難さが身にしみた。

e. 大地震が起きてみろ。こんなボロ家，すぐにつぶれてしまうぞ。

(4)のように前接するのが意志的な動作の場合はテミルを「試行」の意に解することができるが，(5)のように意志的な動作ならざる事態である場合，テミルは「試行」とは解されない。これらの文は，後件に，認識主体にとっての発見や新たな認識の対象となる事態が示されるという特徴を持つ。前件すなわちテミルの用いられる条件節，テ形節，命令文（命令節）は，「結果として新しい認識や事態をひきおこす動作を体験することを表す」（高橋 1976)，「発見のきっかけを表す」（グループ・ジャマシィ 1998)，「X（前節に示される事態）の後，ある状態を知覚することを意味する」（三宅 2017）などとされる。

以上の【Ⅰ】・【Ⅱ】は既によく知られているところだが，これらのほかに，テミルについては次のような現象が観察される。

【Ⅲ】タリ節において

補助動詞「みる」に意志的な動作が前接してテミルが「試行」を表していると解釈できるもの（例(6)）もあるが，非意志的な動作や自然現象など，主体の意志的な動作ではない事態が前接することもある(例(7)～(9))。

(6) 音は良いが見た目の悪い部屋だったので，間接照明を仕込んでみたり，観葉植物を置いてみたりして遊んでいました。

（www.m-worksdesign.com/Concept.html　2017.8.13 閲覧）

(7) 疲れたり，何かにびっくりしたようなときには，呼吸が荒くなる。また，悲しいことや悩みごとで胸がいっぱいになっているようなときには，思わず長い溜息が出る。そうかと思うと，うれしいときには，思わず息

がはずむ。こんなふうに，はずんでみたり，思わず飲み込んでみたり，息をつめてみたり，抜いてみたり，伸ばしてみたり，刻一刻，無意識のうちに，さまざまな呼吸の仕方をしているのである。(尾関宗園『心配するな，なんとかなる』)

(8) ただ過失や乾燥，肥料焼けなどで真っ先に傷んでしまうのもやはりこの根先。窒素ばかりが吸収されて葉色が黒ずんでみたり，病気が蔓延してみたり，花が飛んでみたりといった障害に悩まされるのは，この大切な根先部分が茶色く褐変してしまっているからです。

(www.phyto.jp/pdf/nk_09_10.pdf　2017.5.29 閲覧)

(9) 皆様,ごきげんよう～なんだか,真夏のようになってみたり　山口県,本日は突然雨が降ってみたり急にパーッと晴れてみたりと，お天気が安定せず

(ameblo.jp/pipopa-kudamatsu/entry-12260103434.htm 2017.5.29 閲覧)

「みる」に前接するのは，(7)では無意識のうちに行う主体に統御できない動作，(8)や(9)では農作物に生じる現象や天候変化等の自然現象である。これらのテミルは，(1)(2)や(6)におけるような「試行」の意には解釈できない。また，「テミルに前接する事態が，意志的動作に限定されない」という現象ではあっても，これらの文は，【Ⅱ】に示した複文や連文のように“後件に発見・認識対象となる事態が示され前件において発見・認識につながる事態が示される”というものではなく，【Ⅱ】と同じように考えることはできない。

タリ節内において「みる」に主体の意志的な動作ならざる事態が前接するという現象の例は，話し言葉や，ブログ・web 掲示板など話し言葉に近い軽い文体の書き言葉の中に見出せることが多いが，それ以外の書き言葉に現れることもあり，単なる偶発的な誤用として捨て去るには惜しく，検討に値する現象と思われる。管見の限りこれまでにほとんど言及されたことのないこのような現象について記述し，追究するのが本稿の目的である。

なお研究にあたって，実例は，国立国語研究所による「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ) 及び「日本語話し言葉コーパス」(CSJ)，「朝日新聞」web 版，「読売新聞」web 版，ジャパンナレッジ(JK)，インターネット上のブログ，書籍から採集した。また例文原文の「、」は本稿に合わせて「,」に改めた。

２．タリ節において「みる」に前接する事態

２．１．前接する事態の概観

タリ節内にテミルが生起する例を観察し,「みる」に前接する事態について,事態における主体，動作（動き）の性質（意志的な動作か否か）や事態の特徴という観点で整理したものが次の表である。

表１：タリ節内でテミルに前接する事態

	主体		動作（動き）の性質，事態の特徴
A	話し手	有情物	意志的な動作。主体が目的を持ち，その目的達成のための手段として行う動作。
B	話し手		意志的な動作。目的があっても目的達成に役立つ動作かといった考えを経ず,あるいは特に目的を持たないで， とりあえず着手する動作。
C	話し手		感想や感慨を述べる意の「思う」。目的達成や結果を得るための手段として意志的に行う動作ではない。
D	話し手，人間一般		意志的に行いえない動作。目的達成や結果を得るための手段として行う動作ではない。
E	第三者		意志的な動作。第三者が主体である動作を，外から観察したもの。
F	動物など	無情物	動詞は意志動詞ではあっても，動物などはふつう，意志的動作の主体とならない。主体の動きを，外から観察したもの。
G	物		自然現象，変化，出来事などであり，意志的な動作ではない。

主節においては，前接する動作の主体は有情物で，ふつうは話し手（質問文や，聞き手に助言・指示・命令する文では聞き手）である。第三者主体は，三人称小説の地の文などに限定され，日常の言語表現としては不自然となる。一方,タリ節に現れるテミルの場合は,[A]～[D]の話し手[2)]のほか,人間一般([D]),第三者（[E]），動物など（[F]），物（[G]）が主体となる例も珍しくはない。動物や物など無情物が主体の場合は，何らかの動きはあっても意志的な動作ではない。また，有情物が主体であっても意志的に行いえない動作（[D]）もある。

次節で[A]～[G]について説明し，例を１～２例ずつ示す。タリ節内部にテミルが生起する例としては,「～てみたり　～てみたり」と複数のタリ節のすべてにテミルが生起する場合,「～てみたり　～たり」や「～たり　～てみたり」のようにテミルが生起するタリ節と生起しないタリ節が併用されている場合,「～てみたり」とタリ節が一つの場合，また「～かと思うと　～てみたり」などタリ節以外の節が併用されている場合などがあるが，今回は「～てみたり　～てみたり」という例を中心に示すことにする。

２．２．それぞれの事態について

[A]目的達成のために行う動作

主節に現れるのと同様に，主体（話し手）が目的を持ち，その目的達成のための手段となる動作を意志的に行うものである。テミルは主節におけるのと同じように「試行」を表していると解せる。(6)が該当するが，もう一例加える。

(10)　なかなか治んないのであの一病院を変えてみたり薬を変えてみたりという風にあの苦労した思いがあります（CSJ 独話）

[B]とりあえず着手する動作

(11)では主体に目的（受験勉強）はあるが，その目的達成に有用かは考えずに動作に着手している。(12)では，主体は特に目的もなく動作を行っている。これらの場合，深い考えもなく，あるいは目的もなく，とりあえず手近な動作に着手している。

(11)　受験勉強っつうのはまー個人個人で見つけるもんだと思ってますのでまー結局初め何言ってる何をやったらいいのか全然分からなかった訳ですけどもまー効率悪くですねえーあっちの問題集を手付けてみたりこっちの参考書を読んでみたりとまー色々やってみた訳です（CSJ 独話）

(12)［引用者注記：私立大学志望であった話し手が，模擬試験の志望校欄に記入した際のこと］　で私立にしようと僕は思ってたんで 国立の方はもう殆ど冗談みたいに取り敢えず東京大学と書いてみたりとか えーっと後社会学部があるところを ん取り敢えず何か手当たり次第に書いてみたりとかしてたんですけど（CSJ 独話）

[C]「思う」（感想や感慨を述べる）

「思う」という動作は，意志的に行う場合もある[3)]が，(13)(14)のような場合は出来事に際して感じた感想や感慨を述べているに過ぎず，目的あって意志的に行った動作ではない。テミルは「試行」とは解することができない。

(13) さて，開けてみましたら，何やらぎっしり詰まってますね。あと，なんだかこれ，無理矢理詰め込んでねぇ？と言った感じで。「本体は下でいいじゃん」とか思ってみたり。先に本体をお目にかけたかったんでしょうかねぇ。あとは多分お約束「電源アダプターでけぇよ！」とか思ってみたり。いや，ほんとでかいですね…凶器になりますね…。（BCCWJ Yahoo!ブログ）

(14) ギターをひくキムタクをみて，「しょーちゃんだってできますよー」と思ったり，オープニングから踊りたいーと思ってみたり，ヨコヒナの方がうまいかもよ，歌，とかも思ってみたり，そんなわたしは今どっぷり eigther です（笑）（BCCWJ Yahoo!ブログ）

[D]意志的に行いえない動作

前掲の(7)で「みる」に前接していた数々の動作は，主体が無意識のうちに行う統御できない動作，意志的に行いえない動作であった。(15)の感情の動き，(16)の「けがをする」も，意志的な動作ではない。

(15) 案外これが 1 番難しくて，みなさん悩んだりしているのかも。未来じゃなく，今を楽しむってなかなか目を向けることが出来ません。 隣を見渡して，うらやましがってみたり，過去を思い出して後悔をしてみたり。しかし大事なのは今，です。

（partner.yahoo.co.jp/column/encounter/　2017.8.13 閲覧）

(16) その壁がどうしても越えられない。努力が報われない。一生懸命やっているのに，他の人たちは楽に飛び越えているような気がするのに，越えられない。（略）／そういう時どうするか。／しばらく時間をおくことです。あんまりガムシャラになってみても，かえって逆効果なんてこともあります。たとえばスポーツだと，けがをしてみたりスランプに陥ったりです。プロでもよくある事です。（読売新聞「yomiDr.」記事アーカイブ 2013.2.15）（「／」は原文で改行されていたことを意味する）

動作の主体は話し手とは限らず，“人はこういう状況にあるとき，このような行動をしがちである”といった内容を述べるなど，人間一般を主体とすることもある。

[E]第三者の動作

前述のように，小説の地の文などを除いた日常の表現としては，主節においては第三者は試行を表すテミルの動作の主体になりにくい。これは，第三者の意志（内面）は話し手にとっては不明であり，テミルで表すのが不自然となるからであろう。しかし，タリ節内では第三者が主体である動作が「みる」に前接することも珍しくない。

(17) どうもそういう予測数字も出さぬで長期計画を組んでみたり，国民負担率がどうなるなんて厚かましく言うてみたり，よくできるもんだな。（略）少なくともどれぐらいの規模になるぐらいのことが言えない厚生省なんてナンセンスだと思うな。(BCCWJ『国会会議録』)

(18) 例えば，マニア，コレクターといわれる人は女に少なく，男に多い。蝶を追いかけてみたり，古い万年筆を蒐めてみたり，汽車や列車，飛行機が好きで，ついにはプラモデルどころか線路まで部屋に敷いてしまったり，駅や線路のそばに引っ越したりする。(BCCWJ『女が 30 代にやっておきたいこと』)

[F]動物などの動作

「試行」には精神活動が前提となるので，「～てみる」の動作主体は人間のように知的な判断ないし洞察力（精神活動）のある存在とされる（森山 1988）。

(19) *その犬は逃げてみた。

したがって，「みる」に前接するのが意志動詞であっても，動作の主体が動物（例(20)）や胎児（例(21)）などの場合，意志的な動作であるとは言えない。

(20) カラスは学習能力が高く「人間の５～６歳児と同程度」だとも言われています。／しかし賢いだけではなく，ちょっとお茶目な一面があるというギャップも彼らの魅力。人や犬のモノマネをしてみたり，ビルの屋上でゴミ蹴り遊びをしてみたり，エサ争奪戦に夢中になってうっかり転んでみたり，奥さんの尻に敷かれてみたり…と挙げればきりがありません。（カラスの魅力 https://www.crow96.com/charm　2017.5.29 閲覧）

(21)　ですがこの２人目。臨月はいっても逆子になってみたり横向になってみたり(笑)そのたびに逆子体操してみたり，帝王切開手術の予約取ったりと心労絶えず。(読売新聞「発言小町」2016.11.6)

[G]自然現象，出来事など

自然現象や出来事では，動きが見られてもその主体は物であり，当然，意志的な動作ではない。既出の例(8)(9)が該当する。(9)は天候の推移を述べるものであったが，同じように天候の推移について「雪が降ってみたり，晴れてみたり。」,「横殴りの雨だったり，晴れてみたりと」のように表現する例が，ブログ等において散見する。その他，次のような例もある。

(22)　それがなんらかの形で固まっていきます。固化の様式はいろいろあります。溶剤が飛んでみたり重合したりしてとにかく固まっていく。固まっただけではいけないので，固まったあとそれがある強度を発現しなければいけない。（BCCWJ『接着と接着剤』）

(23)　むしろ高齢化社会の中においては非常に過重な給付が出てみたり，逆に非常に負担が大きくなってみたりという，そういったことが予想されまして，そういう観点からできるだけ公平な制度のあり方ということが求められてきておる。(BCCWJ『国会会議録』)

このように，タリ節内部においては，「みる」には多様な事態が前接する。

３．主節におけるテミルの「試行」の意味について

タリ節に見られるこのような現象について考えるに際し，主節におけるテミルについて再考する。主節においてテミルはもっぱら「試行」・「試しに～すること」を表すとされるが,「試行」とはどういうことかについて,改めて考えたい。

３．１．先行研究に見る「～てみる」の「試行」の意味記述の例

先行研究から，吉川(1975)，高橋(1976,2003)で，主節における「試行」の意味に相当する内容を示している記述を紹介する。

吉川(1975)は「「～てみる」の主な二つの意味」として次の二つを示す。[4)]

（Ⅰ）あることを知るためにある動作をすること。

（Ⅱ）ある動作をした結果の状態を知るためにその動作をすること。

（吉川 1975：39）

高橋(1976)は「動詞のあらわす動作がなんのためにおこなわれるかをあらわす文法的な意味をもくろみという」とし，もくろみを表す形式「もくろみ動詞」の一つとして「して　みる」を位置づける。その用法として次の二つが示されている。(原文の(1)(2)を，混乱を避けるため①②に改めた)

① ためしにする動作をあらわす。(高橋 1976：142)

② じっさいに動作（体験する動作，実現する動作）がおこなわれることをあらわす。(同：143)

②の例としては，条件節，テ形節，命令文など，本稿での【Ⅱ】に相当するものや「～てみたい」のように希望・願望を述べるものが挙げられているので，ここでは除く。①として挙げられた実例については，「このなかには，どうなるか，あるいは期待どおりになるかどうかをためすばあいと，知覚や理解をするための条件をつくるばあい（つまり，どうなっているかを知るための動作をするばあい）とがある。」(高橋 1976：143）と述べられている。これらの内容は高橋(2003)においても踏襲されている。

３．２．試行の要件とは

「試行」の説明中に「何かを知るために」「結果を知るために」「知りたい気持ち（関心）があって」といった文言を含める記述は多い。「試行」の説明として先行研究の多くに共通に見られる内容として，「動作主体は何かを知る，あるいは結果を得るといった目的や目論見を持ち，その達成・実現のために，意志的に動作を行う」ことが挙げられる。そこで，試行の要件と考えられるものを次のように仮定する。

(24) 試行の要件（仮定）

ⅰ.〈主体〉：有情の存在である。

ⅱ.〈主体の意志〉：主体は意志的に動作を行う。

ⅲ.〈目的〉：主体は目的を有する。

ⅳ.〈動作の意義〉：主体が行うのは，目的達成の手段となる（と主体が考える）動作である。

例えば既出の(1)は，話し手という有情の主体（ⅰ）が，「人々の意識を探る」という目的を持ち（ⅲ），その目的達成の手段として有用と考える「アンケート

調査を行う」という動作（ⅳ）[5)]を意志的に行った（ⅱ）もので，要件ⅰ～ⅳをすべて備えている。

３．３.「試行」の典型から逸脱するテミル

しかし，主節においてテミルによって表現される事態が，(24)の要件のいくつかを欠く場合もある。

３．３．１.“とりあえず”動作に着手する場合

次は，目的（コンピュータの状態の改善，大量のプチトマトの処理）はあるが，その目的達成に有用な手段であるかなどと考えることなく，とりあえず手近で手を付けやすい動作に着手している例である。

(25)「コンピュータの箱のなかで何が起きているか？」は一般人にとって永遠の謎です。だから何が困るかって，壊れたときです。インプットしても期待通りのアウトプットが出てこないとき，壊れたときにどうする―。とりあえず，叩いてみる。ダメなら，もう一回くらい叩く。それでもダメなら，あきらめて修理に出す。―こんな感じではないでしょうか？（BCCWJ『経営がみえる会計』）

(26) 実家からプチトマトを大量にもらったときも，とりあえずジュースにしてみた。まずかった。(BCCWJ　Yahoo!ブログ)

また，主体が特に目的を持たずに動作を行っているケースもある。

(27) 離れたところにあるですね まーゴアっていうところがあるんですけれどもそこに行きました で あ取り敢えず行ってみただけなので えーどこに行きたいとかそういうこともなかったんですけどもね（CSJ 独話）

(28) 俺は正直どうでもよかったが，とりあえず話を繋いでみた。（BCCWJ『野ブタ。をプロデュース』）

目的を持たないということは，その動作（ゴアへ行くこと，話を繋ぐこと）も目的達成のための手段として行ったわけではないことになる。

このように，目的はあってもその達成に有用な動作かなどを考えることなく，あるいは特に目的もなく，とりあえず，手近な動作，手を付けやすい動作に着手することを表している場合，すなわち(24)のⅲやⅳを欠く場合の例も見受けられる。このような場合，「とりあえず」，「ただ」，「ちょっと」といった副詞が

共起したり，「みる」の後に「だけ」が付されていたりすることが多い。

主節におけるテミルの中に，「目的達成のための手段として動作を行う」とは言いにくいものがあることは，須永(2007)でも指摘されている。須永は文末のシテミル形（本稿で言うところの主節におけるテミル）の意味を〈試み〉(「試しに～する」こと)としながらも，「シテミル形にはさほど結果を知りたいとか，手段であるとかいった色合いが感じられないものもある」（須永 2007：44）と述べ，次のような例を挙げている。(例文番号は私に改めた。)

(29) 近くに来たものだからちょっと寄ってみただけです。

(30) まだ時間があるから，ちょっとその辺を歩いてみましょう。

(31) うまくいくとは限りませんが，まあやってみます。

ただし須永は(29)(30)にも「～したらどうなるか」という関心は感じられるとし，(31)にも「『結果はわからない』という形での結果への意識は指摘できる」と述べ，これらにも「シテミル形共通の結果への意識」というものがあると述べる。〈試み〉の用法を「結果を知るための手段としての行為」と捉えるのはややきつすぎるとしつつも，「文末での意味のポイントは，実際は『結果を何らかに意識しつつその行為をする』という点にあると考えたい」(同：45)としている。しかし，「結果を何らかに意識しつつ」とはどのように判断できるのだろうか。例えば(25)については「叩くことでよくなるかもしれない」といった結果への意識が主体にあると考えることもできるが，(26)では主体が結果を意識しつつ動作したのかどうか判断しがたく，また(27)(28)にはその意識は疑わしい。

本研究では，「主体が目的を持つ」ことを「主体には目指す結果があり，その結果を志向する」ことであると捉える。「目的を持たない」場合には「結果への志向もない」と考える。これを踏まえて，(24)を次のように改める。

(32) 「試行」の構成要素

・「試行」を構成する要素として次のようなものがある。

ⅰ.〈主体〉：有情の存在である。

ⅱ.〈主体の意志〉：主体は意志的に動作を行う。

ⅲ.〈目的〉：主体は目的を有し，何らかの結果を得ることを目指している。(主体は結果を志向している。)

ⅳ.〈動作の意義〉：主体が行うのは，目的達成の手段となる（と主体が

考える）動作である。

・ⅰ～ⅳを備え「有情の主体が目的を持ち，その目的達成の手段と考える動作を，意志的に行う」のが典型的な「試行」である。が，ⅳやⅲを欠く場合もある。

ⅳを欠く場合（例(25)(26)）や，ⅲを欠く（ということは，ⅳをも欠くことになる）場合（例(27)(28)）でも，事態は「～てみる」（テミル）と表されはする。しかし，ⅳを欠くとは「目的はあっても，目的達成のために有用かどうかなどを考えることなく，とりあえずある動作に着手する」ことであり，ⅲを欠く（と同時にⅳも欠く）とは「特に目的もなく，したがって目的達成のため云々などと考えることもなく，とりあえずある動作に着手する」ことである。目的達成のために有用かと考えることなく，あるいは確たる目的もなく，とりあえず手を付けやすい何らかの動作に着手するという場合，その動作への取り組みには「手軽さ」や「気軽さ」などの「軽さ」，場合によっては「安易さ」などが感じられるようになる。ⅳやⅲを欠き「試行」の典型から逸脱するテミルに感じ取れる意味は，「試行」の典型に感じ取れる意味から逸脱したものとなる。

３．３．２．感想や感慨を述べる「思う」の場合

注３に示したように，主体が目的を持ちその達成のために「思う」ことを意志的に行う場合もあるが，次の例のような場合，主体は特に目的を持たず，したがって目的達成のための手段として「思う」ことを行ったわけでもない。

(33) くたらない質問て，すみません。あすかあるというけれと，そう思えないときとうしていらしゃいますか？　―う～ん・・・とりあえず濁点は必要だと思ってみた　（BCCWJ　Yahoo!知恵袋）

(34) 「絶海の孤島」って，海が絶えちゃったら，そりゃ陸だよね～，ってことなんでしょうか。…ちょっと思ってみただけです。(BCCWJ　Yahoo!ブログ)

(33)は投稿者の（奇異な表記の）質問に遭遇して，(34)は「絶海の孤島」という表現に触発されて，思わず抱いた感想や感慨を述べたに過ぎず，これらは主体が意志的に行った動作であるとは言いがたい。とすると(32)のⅳ，ⅲを欠くだけでなく，ⅱも備わっていないことになる。

これらの例に感じ取れるのは，思考内容および思考動作が「ちょっとした思いつき」「他愛ないこと」，「あまり真剣ではないこと」「深刻に取る必要はないこと」のように表されているということである。「～と思った」ことが，テミルを用いて表現されることによって（「とりあえず」「ちょっと」「だけ」などの共起もあるが），軽いこと，他愛ないことのように表されている。ここにも，「試行」の典型から逸脱する事態がテミルと表現される場合，テミルはその事態に「軽さ」を付加するように働くという現象が観察される。

４．タリ節におけるテミル

４．１．[B]とりあえず着手する動作，[C]「思う」（感想・感慨）

前節を踏まえると，２．で示したタリ節内部で「みる」に前接する事態のうち，[A]のほかにも主節のテミルと関連させられるものがあることがわかる。すなわち，“とりあえず”動作に着手する場合（３．３．１.）は［B］（とりあえず着手する動作）として，感想や感慨を述べる「思う」（３．３．２.）は［C］（「思う」（感想や感慨を述べる））として，タリ節内部においても現れうるということである。

４．２．[E]第三者の動作について

テミルが“主体には，考え，あるいは目的もないが，とりあえずある動作に着手する”場合にも用いられ，典型的な「試行」の場合には感じ取れないような「軽さ」や「安易さ」を表しうることが積極的に利用されていると思われるケースが，タリ節における［E］（第三者の動作）の中に見られる。第三者を主体とする動作のうち，既出の(17)や，次の(35)(36)のような例が該当する。

(35) [不信，断ち切って　続いた辞職「都民置き去り」都知事選]「また皆，きらびやかなことばかり言っている」　国に対立的な姿勢をとってみたり，「改革」ばかり叫んでみたり。前２代の知事の政治姿勢を振り返ると，パフォーマンスが目立った。「都政の 99%は地道な仕事。次こそ，そこをわかった人に来てほしい」（朝日新聞 2016.7.15）

(36)　それから各都道府県 えー でもやっていることなんですがこういうものはですね えー 見直していかなきゃいかんと 特にですね えー ま

建設族と言うか政治絡みのですね 要らない道路を作ってみたり えー環境汚染に あ 環境破壊に繋がせる[ママ]ようなものはこれからやめていかなきゃいかんと（CSJ 独話）

これらは背景や文脈に特徴がある。話し手が，批判対象たる人物なり組織なりが行ったことを低く評価し，批判したり非難したりする発話や記述であるという点である。俎上にあがっている行為は，意志動詞による意志的動作であり，本来ならば動作主体である人物や組織が，政策上などの目的を持ち，その達成のための手段を模索してそれなりの思慮，考えも経た上で行った動作行為のはずである。しかしそれらを批判的に見ている話し手（主体の動作を(17)「厚かましく言う」，(36)「要らない道路を作る」と表現しているところにもそれが表れている）は，テミルを用いて表すことで，「大した思慮も見通しも持たずに着手した動作」，「十分な思慮や検討も経ず，事前の見通しも持たないで取り掛かった動作」「いい加減な動作」であるように表現しようとしているのではないか。

タリ節を用いて複数事態の列挙が行われている（(36)ではタリ節は１つであるが「環境破壊に繋がせるような」行為の存在が他にも暗示されている）ことも相まって，批判したい第三者の動作の数々を“考えも見通しもない，その時その時での，行き当たりばったり，お座なりな行為の積み重ね”，“浅慮の結果の迷走”のように表現する効果が生じている。[6)]

ただし，批判的に表す意図だけで，第三者の動作がテミルによって表されるわけではない。(18)や次の(37)には特に批判的な意味合いは感じられない。

(37)　さらにマッティオーリが与えております泡という名称は，花から離れて空中を飛ぶものにはあまりふさわしいとは思えません。シナ人はもっとうまい表現を使っているようです。すなわち柳の絹，すなわち糸（ス）と呼んでみたり，柳の毛すなわち毳（ツイウ）と呼んでみたり，柳のわた，すなわち綿（ミエン）と呼んでみたり，柳の良質の毛，すなわち絨（ジュン）といったりしているのです。（JK『中国の医学と技術　イエズス会士書簡集』）

４．３．タリ節において「みる」に前接する事態－主節との比較

タリ節において「みる」に前接する諸事態のうち，［A］のほか［B］［C］も，主

節にも現れうるものであることがわかった。しかし[D]・[F]・[G]については，主節にもあるテミルの用法がタリ節内でも用いられたものと考えるのは難しい。

(16)'あんまりガムシャラになってみても，かえって逆効果なんてこともあります。*たとえばスポーツだと，けがをしてみます。([D] 意志的に行いえない動作として)

(20)'*カラスにはちょっとお茶目な一面があり，よく人や犬のモノマネをしてみる。([F]動物の動作として)

(9)'*山口県，本日は突然雨が降ってみた。([G] 自然現象，出来事として)

また[E]（第三者主体の動作）については，主節における用法との関連で，主体の動作を批判的に表現するのにテミルが用いられることを説明したが，話し手が主体の動作を批判的に取りあげているか否かに関わらず，第三者主体の動作を主節に表すのは，日常の言語表現としては不自然になる。

(35)'*ある候補者は，国に対立的な姿勢をとってみた。

(18)'*マニア，コレクターといわれる男性は，蝶を追いかけてみる。

タリ節内で「みる」に前接しうる事態［A］～［G］((32)の「試行」の構成要素についても付す）の，主節での前接について整理すると次のようになる。

表２：タリ節内でテミルに前接する事態—主節との比較

タリ節内で「みる」に前接する事態		「試行」の構成要素				主節での前接の可否
		i	ii	iii	iv	
A	目的達成のために行う動作	○	○	○	○	◎
B	とりあえず着手する動作	○	○	○	―	可
		○	○	―	―	可
C	「思う」(感想や感慨)	○	―	―	―	可
D	意志的に行いえない動作	○	―	―	―	不可
E	第三者の動作	○	○	△	△	不可
F	動物などの動作	―	―	―	―	不可
G	自然現象，出来事	―	―	―	―	不可

△：主体の動作を批判的に取り上げる場合は，“iiiやivを欠き，考えや目的が疑わしい”かのように表現している

４．４．タリ節という環境ータリ節による事態列挙とテミルの適合

タリ節内部でテミルに前接する事態として，主節に比べて多様なものが可能となる現象には，タリ節という環境が影響を与えていると考えられる。

タリ節は，複数の事態の列挙を行う。[7] その列挙の仕方は，「結合的並列」とも呼ばれるが（森山 1995），中俣（2015）では「あるテーマの異なる側面，すなわちあるテーマについて出現可能性をもつ事態の並列」（中俣 2015:215）と説明されている。その通りに，たとえば(7)には「無意識のうちに行う呼吸動作」，(9)には「山口県の本日の天気」，(20)には「カラスのお茶目な一面」というテーマがあり，そのテーマの具体的な事態が列挙されている。

しかし，テーマの下に具体的な事態を列挙するだけなら単に「～たり」（の並列）で済む。実際，[D]，[F]，[G]のような事態，それに[E]でも第三者の動作を特に批判的に取り上げようとしていない場合，テミルが介在しなくても文は成立する。(40) は「最近の不安定な精神状態」として意志的に行いえない感情動作が列挙されているが，テミルは介在していない。また(16)でも「けがをしてみたり，スランプに陥ったり」と，「けがをする」はテミルで表されていたが「スランプに陥る」はそうではなかった。

(40) 最近，精神状態がどうにも不安定になる時がある。急にイライラしたり，悲しくなったり，時には，妙な具合にハイテンションになり，周りを驚かせてしまうこともある。(BCCWJ『青春と読書』)

(22)でも「溶剤が飛ぶ」にはテミルが介在しているが「重合する」にはない。

ではなぜこれらの事態がテミルによっても表され「～てみたり～てみたり」となるのだろうか。[D]の例(7)(15)(16)，[F]の例(20)(21)，[G]の例(8)(9)(22)(23)，[E]で主体の動作に特に批判的ではない(18)(37)において，「みる」が積極的に何らかの意味を動作に加えているとは特に感じられない。考えられるのは，タリ節による「あるテーマの下での具体的事態の列挙」に，テミルという形式がなじみやすいということである[8]。上記のような例では，それぞれにテーマがあるとはいえ，そこに集められた具体的事態の多彩さ多様さが目立つ。無意識裡の様々な呼吸動作（(7)），感情の揺れ（(15)），カラスの多彩な行動（(20)），作物に生じる様々な障害（(8)），短時間の天候の推移（安定のなさ）（(9)），固化の様式のいろいろ（(16)），複数の主体それぞれの多様な動

作（(18)(37)）などである。他に，［F］にはペットの行動の描写など動物の目まぐるしい動き，［G］には歴史上の変化を並べた例や錯綜する事態を並べた例なども見受けられる。

「試行」の典型から逸脱した事態がテミルによって提示される場合，動作に「軽さ」が加味されるという現象があった。そのような一面も持つテミルは，テーマに適う多種多様な事態を並べ立てることに,適合しやすいのではないか。タリ節によって多種多様な事態を並べ立てる際に，事態にテミルを加えることが，自然に行われうるのではないだろうか。[9)]

５．終わりに

以上，タリ節内において，テミルに前接する事態として多様なものが可能となるという現象を記述し，現象の追究の過程で「試行」についても再考した。今回取りあげたようなテミルについては,「みる」という語の文法化現象における位置づけなども考える必要があると思われる。今後の課題としたい。

注

１）先行研究では「言い切り」「文末」などとも称されるが，ここでは,【Ⅱ】の条件節・テ形節・命令文や【Ⅲ】のタリ節との対比のため「主節」と呼ぶ。なお，テミルに「たい」「ほしい」などの文末形式が共起する場合は「無意志事態」も前接可能である旨が森山(2017)で述べられているが，本稿で扱う主節におけるテミルの例からは,「たい」などと共起するものは除く。

２）[A]～[C]の主体はふつう話し手であるが，主節と同様に，質問文や聞き手に助言・指示・命令などを行う文では，聞き手が主体となる。日常の言語表現ではない三人称小説の地の文では，第三者が主体となることもある。

３）次のような「思う」は意志的な動作であり，テミルは「試行」と解せる。

・今度は,「私かもしれないけれど，私ではないかもしれない」と思ってみましょう。多分，気分がちょっと違うと思います。(BCCWJ Yahoo!知恵袋)

４）吉川(1975)は「主な二つの意味（Ⅰ）（Ⅱ）」の他に「(Ⅲ）ある情報をもたらし，または結果を生みだすことになる動作をあらわす」をも示すが，これは条件節で用いられるものとされ，すなわち本稿での【Ⅱ】に相当する。

5）(1)には主体が「目的達成のためにはアンケート調査が有用だ」と考えたとはことさらに示されていないが，３．３．で触れるような場合のほかは，目的を持つ主体はふつうは有用と考えられる動作を行うものと考えられる。

6）高橋(1976)は“「してみる」の特殊な用法”として，「～してみたり～してみたり」について「なんでもないうごき，いいかげんなうごきをはたからみてあらわす」(同：144)と述べ，次の例を挙げている。(下線は引用者による)

・そのいとこたちをとりまく娘たちのあれこれに恋愛してみたりやめてみたりしていた。

・私もその群れのなかにとびこんでつかりながら，厚い人だかりの層の真中につっこんでみたり，走ってくる女にぶつかりそうになったり，いそがしげな列をよこぎってみたり，密談している仲間をわざとかきわけてみたりして，一刻もじっとしていられないようにかけずりまわって，嘉門をさがしていた。

しかし，それ以上の説明はなく，動作主体に何か限定があるのかや，なぜ「なんでもないうごき，いいかげんなうごき」を表すのかについては不明のままである。本稿では本文でも述べたように，話し手が，テミルが“考えや目的を欠きながらとりあえずある動作に着手する場合”にも用いられて「軽さ」や「安易さ」を動作に加味することを利用し，批判的に捉えている第三者の動作をあげつらうのに，テミルを用いタリ節で列挙して表現するのだと考えている。

7）タリ節の用法のうちでも，終助詞用法（中俣 2015）と呼ばれ事態を一つだけ提示するもの（例「うどんにマヨネーズをかけたりして。」）は，本稿の対象外である。

8）列挙を行う節であっても，タリ以外の形式「トカ」「ダトカ」「ナンテ」「ナド」による並列節や，用言終止形による節では，その内部にテミルが現れても，前接する事態は有情主体（話し手，質問や指示の場合は聞き手）の意志的な動作に限られ，テミルは典型的な「試行」の意に解釈される。タリ節におけるように，有情主体の意志的な動作以外の事態も前接可能になるという現象は見られない。次はトカ節およびナド節の例である。

・状態志向で行われる活動の例としては，自分のパフォーマンスの結果を

他の水準と比べてみるとか，目標を達成できなかった原因を検討するとか，自分の現在の心境を反省してみるなどがある。（BCCWJ『認知とパフォーマンス』）

BCCWJ で採集した「～てみるとか」115 例はすべて，上の例のように目的達成のための手段方法を提示するものであった。これは「トカ」が「何かを選ばねばならないという環境で使われ」「何らかの必要性，要求といった言い方につながる」（森山 1995:141-142）という性質を持つことの反映と思われる。

９）はじめに，【Ⅲ】の現象は話し言葉や，ブログなど話し言葉に近い軽い文体においてよく見られると述べたが，それらの使用例を観察していると，あたかも「～てみたり」という複合形式が「テーマに適う多様な事態を，思いつくままに並べ立てる」という機能を持つ形式として用いられているようにも思える。あるいは今後，このような「てみたり」は現在よりも増加していくかもしれない。

参考文献

市川保子（1990）「「～てみる」「～ておく」「～てくる」の表現意図：話し手の意思表現を中心に」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』5：209-228

菊田千春（2011）「複合動詞テミルの非意志的用法の成立―語用論強化の観点から―」『日本語文法』11-2：43-59

グループ・ジャマシィ（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版

須永哲矢（2007）「してみる形の意味」『日本語学論集』3：38-51

高橋太郎（1976）「すがたともくろみ」金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』117-153，むぎ書房

高橋太郎（2003）『動詞九章』ひつじ書房

寺村秀夫（1992）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版

中俣尚己（2015）『日本語並列表現の体系』ひつじ書房

本多 啓（2007）「副助詞タリの用法」『駿河台大学論叢』33：1-18

三宅知宏（2017）「日本語の発見構文」天野みどり・早瀬尚子編『構文の意味と拡がり』65-78，くろしお出版

森田良行（1977）『基礎日本語文法』角川書店

森山卓郎（1988）『日本語動詞述語文の研究』明治書院
森山卓郎（1995）「並列述語構文考－「たり」「とか」「か」「なり」の意味用法をめぐって－」仁田義雄編『複文の研究（上）』: 127-149，くろしお出版
森山卓郎（2017）「意志性の諸相と「ておく」「てみる」」森山卓郎・三宅知宏編『語彙論的統語論の新展開』135-150，くろしお出版
吉川武時（1975）「「～てみる」の意味とそれの実現する条件」『日本語学校論集』2：36-51

付記

阪大日本語学研究会（2018 年 9 月 22 日）での発表の折，貴重なコメントを頂きました。また，高梨信乃氏（関西大学），前田直子氏（学習院大学）からもコメントをいただきました。記して感謝申し上げます。

（四天王寺大学准教授）